

# まちの日記帳



資源の回復と増大を図るため、東しゃこたん漁業協同組合（杉山賢代表理事組合長）は、京極町と真狩村のサケ・マスふ化場で育てたサケの稚魚合計150万尾を4月16日と20日に美国川に、また、18日と20日には積丹川に、合計200万尾の稚魚を放流しました。

水槽内で泳ぎ回る6cmほどの稚魚はホースを使って川へ放流されると、雪解けの冷たい水の流れに乗って元気に泳ぎ回っていました。

大きくなって帰っておいで！  
美国川・積丹川でサケ放流

4/16 4/18  
4/19 4/20



積丹町における水産業の健全な発展と活力ある漁村づくりを目指す「積丹地域マリンビジョン計画」の取り組みを参考にするため、韓国の建国大学校に在学する農漁村公社の地域開発担当など23人が来町しました。

役場の会議室で行われた研修会では、農林水産課物見主査が通訳を通じて同計画のほか、漁獲量や漁獲高、磯焼け対策などを説明。参加者は、磯焼けの原因や漁協施設の運営方法のほか、積丹町の産業などについて熱心に質問していました。

韓国建国大学23人が来町  
「マリンビジョン計画」を研修

4/18



第23回町内ソフトバレーボール大会が海洋センターで開催されました。

20日に女子の部、25日に男女混合の部と2日間の日程で行われた大会には、合計14チーム62人が参加。勝利を目指して熱戦が繰り広げられました。

結果は次のとおりです。

【女子の部】  
優勝 春が来た  
準優勝 チームp.p  
第3位 ドタバタチーム

【男女混合の部】  
優勝 B&G  
準優勝 ふるる  
第3位 バースデー

勝利へアタック  
町内ソフトバレーボール大会

4/20 4/25



「岬の市場」の営業がこの日から始まりました。

市場には、行者ニンニクや山わさびなどの山菜や雪の下で寝かせたジャガイモ、水産加工品、珍味などが並び観光客等で賑わいを見せています。

また、4月29日・30日と5月3日から5日までのゴールデンウィーク期間中には、積丹産の生のりの入ったそばや積丹沖で獲れたツブ入りの炊き込みご飯なども販売され、訪れた観光客らが積丹の磯の香りや風味、旬の味覚を堪能しました。

積丹の味覚を召し上がれ  
「岬の市場」営業開始

4/21

音楽で心も体もリフレッシュ  
—リフレッシュ学級開校式—

4/26

今年度、第1回目となるリフレッシュ学級が総合文化センターで行なわれ、32人の高齢者の皆さんが参加しました。

音楽療法師の近藤ひとみさんを講師に招いて行われた学級では、「北国の春」、「さくらさくら」など春の歌を合唱。キーボードの演奏に合わせ、用意された色鮮やかなスカーフを振ったり、また、太鼓や鈴などの楽器でリズムをとったりと、楽しそうに笑顔で歌い、時には笑ったりと、会場は終始、和やかな雰囲気になっていました。



ボランティア委員会が  
花まちづくり

5/11

町地域包括支援センターは、高齢者のためのボランティア委員の協力のもと、スイセンやルピナスが咲き誇る岬の湯しゃこたんの入口周辺の草刈作業を行いました。

この日、同委員会やスタッフなど10人が参加し、花に混じって生い茂る雑草の刈取りや新たなスイセンの球根を植栽。岬の湯までの「花ロード」を目指し、今後も活動が続けられる予定です。見頃を迎えたスイセンやルピナスは岬の湯を訪れる人々の目を楽しませています。



山菜採りで春の息吹を実感  
第1回少年教室

5/12

春の山を散策しながら山菜採りや春の息吹を楽しむ第1回少年教室「春の山菜採り」が野外スポーツ林スキー場で行われ、小学生やボランティアなど26人が参加しました。

積丹山岳愛好会の橋場政男さんの指導で、山菜の見分け方や採り方などを教わりながらスキー場内を1時間ほど散策し、山菜採りを体験しました。また、採れたてのウドやフキなどを天ぷらにして試食会も行われ、豊かな自然の恵みを満喫する1日となりました。



交通ルールをしっかり守って  
びくに保育所で交通安全教室

5/15

びくに保育所園児の保護者などで構成される交通安全こぐまクラブ（佐藤あさみ会長）は、園児の交通事故防止のための活動を行っており、この日、びくに保育所内で園児20人を対象に交通安全教室を開催しました。

教室では、同クラブ役員による紙芝居の上演のほか、佐々木美国駐在所長による自転車の正しい乗り方などについて指導がされ、園児たちは、お巡りさんを目の前に、ちよっぴり緊張しながらも、真剣に交通ルールの大切さについて教わりました。

